

帥そら大伴おほとも卿まへつきみ、吉野よしのの離宮とつみやを遥はるかに思おもひて作つくる歌うた一首

九六〇番

隼人はやひとの 瀬戸せとの巖いはほも 鮎あゆはし走る 吉野よしのの滝たきに なほ
しかずけり

帥そら大伴おほとも卿まへつきみ、次田すきたの温泉いでのゆに宿やどり、鶴たづが音ねを
聞ききて作つくる歌うた一首

九六一番

湯ゆの原はらに 鳴なく葦あしたづ鶴はは 我あがごとく 妹いもに恋こふれ
や 時ときわかず鳴なく

天平二年庚午てんびやう かうご、勅みことのりして權駿馬使てきしゆんめしおほとものみちたり大伴道足すくねを遣つかはす時ときの歌うた一首

九六二番

奥山おくやまの 岩いはに苔こけむ生むし 恐かしこくも 問とひたまふかも
思おもひあへなくに